

2011/3/15タウン小麦【ラグビータウン熊谷】特集

熊谷不惑倶楽部吉田会長記事

生涯、ラグビーとともに
熊谷不惑倶楽部会長
埼玉県ラグビー協会元理事長
吉田嘉高さん

税理士の吉田嘉高さんは、御年73歳の現役ラグーマン！不惑(40歳)以上のラグビーチーム「熊谷不惑倶楽部(通称・熊感、メンバー数60名・昭和51年結成)」の会長を務めて20年以上になる。
熊感(ゆうわく)には、昭和42年の埼玉国体、ラグビースクールの開校、平成3年の熊谷ラグビー場オープニングゲーム開催などに尽力してきたメンバーが多く、吉田さんももちろんその中心人物。長きに亘りラグビースクールの校長の任にも携わり、草の根から熊谷のラグビーの発展を支え続けた。



立正大学ラグビー部堀越監督記事



堀越監督は熊谷工業高校出身。ポジションはスクラムハーフ。元早稲田大学ラグビー蹴球部、元神戸製鋼コベルコステイラーズ選手で、小兵ながら(通称モグ)、卓越したゲームコントロール、機敏なプレー、果敢なタックルで常にグラウンドを沸かせた。現在は立正大学ラグビー部監督。ベンチで大声で選手達に指示を出す「モグ声」はおなじみだ。
文字通りラグビータウン熊谷のスポーツで町を元気にしよう、と、産学官が連携し4年前に始まったのが「立正大学ラグビーフェスティバル」。熊谷ラグビースクールのちびっこ達から中学生、高校生、大学生、社会人と世代を超えラグーマンが集結。今回の目玉はなんと「女子セブンス」の試合。身近で女子ラグビーの迫力が味わえる。立正大学ラグビー部には4月から初の女子部員(宮崎県出身)も加わる。



「One for all, all for one」そして「ノーサイド」の精神こそ、ラグビーの魅力だそう。仲間との強い結束はもちろんのこと、試合が終われば敵味方を超えて友好を深め合う。「ラグビーはちゃんとやれば危険なスポーツではなく、何歳になっても続けられる生涯スポーツなんです」と語る吉田さんのユニフォーム姿は、70年代ラグビーの証の「黄色パンツ」。80年代ラグビーの「紫パンツ」に向けて、「地に弾んだどちらに跳ねるか分からない」楕円球を追いつける。

「地元大学がどれだけ地域貢献できるか。スポーツの枠を広げ、野球やサッカー、ランニングクラブなども含め総合的なスポーツフェスティバルにしていけたら」と堀越監督。夢はすべてのスポーツを楽しめる熊谷スポーツタウンを誕生させる事。障がい者スポーツにも新たな境地を開きたいと話す。

第4回立正大学ラグビーフェスティバル
4/10(日)9時から開催
立正大学ラグビー部監督
堀越正己さん

日本ラグビー協会理事 勝田隆さん記事

私がラグビーと出会った街
仙台大学教授、日本ラグビー協会理事、JOC委員
勝田 隆さん

私がラグビーと初めて出会ったのは、熊谷駅の南口から真っ直ぐ、荒川の土手下の河川敷にあったラグビー場、稲刈りが終盤を迎えた季節のことである。立正大学ラグビー部には4月から初の女子部員(宮崎県出身)も加わる。



「地元のラグビー界をリードする人」とは趣を異にしていた。「I forgot, Show me, I remember.」

ber. Involve me, I understand.
(話すだけなら忘れるよ。やってみせてくれれば思い出す。夢中にさせてくれれば理解できる。)

1957年9月生まれ。埼玉立熊谷工業高校卒業、筑波大学卒業。現在、仙台大学教授。スポーツ情報、マーケティング、学術情報戦略を専門とする。ラグビー高校日本代表監督や19歳以下日本代表・23歳以下日本代表のコーチを経て、日本代表テクニカルディレクターとして、ラグビーワールドカップやアジア競技大会に参加。その後、日本ラグビー協会強化委員長などの任にあたり、現在、日本ラグビー協会理事。

2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催される。高校ラグビーの(東)聖地・熊谷市が、世界のラグビータウンとなり、世界中の人たちがここに集まる光景を想像してみよう。それを映し出すスクリーンの背景には、私を巻き込んでくれた大人たちの熱い姿がいつも映りこんでいる。

プロファイル
1957年9月生まれ。埼玉立熊谷工業高校卒業、筑波大学卒業。現在、仙台大学教授。スポーツ情報、マーケティング、学術情報戦略を専門とする。ラグビー高校日本代表監督や19歳以下日本代表・23歳以下日本代表のコーチを経て、日本代表テクニカルディレクターとして、ラグビーワールドカップやアジア競技大会に参加。その後、日本ラグビー協会強化委員長などの任にあたり、現在、日本ラグビー協会理事。

熊谷工業高校記事

明日にでも勝つ！
常勝チームを目指す伝統ラグビー部
埼玉県立熊谷工業高校ラグビー部

「あと一回〜」大きくハリのあつる声でグラウンドに響き、さつまで隣でインチャイユに答えてくれたシャイでさわやかで優しい声の持ち主とは別人のようだった。熊谷工業ラグビー部のエース、新野好之監督はこの伝統あるラグビー部を、どんなチームに導こうとしているのか。「花園出場、全国ベスト4」明日にでも勝つた！「今日の練習はそのための準備。練習後の自分の時間を10分でも15分でも使って、ラグビーボールを握るのが努力。返事、挨拶、後始末など、普段の生活をしっかりとすることが、選手を作っていく。選手が自分たちは強い」と自信を持ち、勝ちの味を知る。

過去には輝かしい戦績を残す(表参照)。トップリーグや大学で活躍する選手や指導者として名は全国に轟いている。監督自身OBの一人、名P、トップレフりとして活躍。塚田元監督の教え子、堀越現立正大学ラグビー部監督が、堀越現立正大学の1年生だった。

古豪復活をめざして

「明日にでも勝つた！」という声で、5年前と10年前には決勝で僅差で敗れた悔しさが忘れられないOBも市民も古豪復活に期待を寄せ、現役部員を暖かく見守っているのだ。そんな地元熱い思いを胸に、脈々と受け継がれた伝統の筋力を糧に、熊工ラグビー部、15年ぶりに花園へ、全国ベスト4へGO!

1948年度 熊谷商工ラグビー部創部
1953年度 森高雄監督就任
1958年度 国体初出場
1966年度 埼玉勢初の全国高校大会出場
1978年度 天理高を下しベスト16進出
1981年度 熊谷商工に分離
1984年度 全国高校大会で初のベスト8
1987年度 第61回全国高校大会3位
1988年度 第45回全国高校大会3位
1989年度 熊谷工業主力の埼玉選抜が国体初優勝
1990年度 第60回全国高校大会初優勝
1997年度 塚田監督就任
2002年度 第70回全国高校大会初優勝
2009年度 中原史史監督就任
2009年度 新野好之監督就任

ラグビータウン熊谷

西の花園、東の熊谷、ラグーマンたちは皆この憧れの聖地を目指す。わが町が、ラグビータウン熊谷といわしめる所以は、日本ラグビー界に名を残す数多くの人材を輩出していることにもあるだろう。古豪熊谷工業高校ラグビー部のOBで、名選手といわれた面々は現役引退後、それぞれ指導者として名を上げている。
4月1日から7日まで、埼玉県営熊谷ラグビー場で第12回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会が開かれる。8年後のラグビーフットボールワールドカップ招致にも動き出した。ノーサイドのフェアプレーのラグビー精神が息づく町の今を取材した。

注目の新商品

ラグビーサルス
くまやや小袋の巻

*新発売のラグビーサルス
プレーン、ココア各1枚80円。
*各5枚入り400円、クリアケイ
ス10枚入り800円
アイモンドの風味豊かな美味いサルスです。
熊谷工業高校の伝統のジャージを着ている小麦の会クマちゃん、ラグビータウン熊谷を応援します。
4月1日から熊谷ラグビー場で開催される第12回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会に出店します。